

# マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部  
マリンレジャー安全推進室  
TEL.093-321-2931

第 87 号 平成 24 年 12 月

## 釣り中の死亡事故が発生しています。 ライフジャケットの着用をお願いいたします！！

12月に入り寒さが一段と厳しくなり、初雪もありました。しかしながら寒さが緩む日には、プレジャーボート、遊漁船など船上での釣りや、磯場や岸壁での釣りを楽しむ方が多い季節です。ただ、残念なことに岸壁や磯場で釣りをしていた方が海中転落し死亡する事案が発生しています。プレジャーボートや遊漁船はもとより、磯場や岸壁など、海中転落する可能性はどこにでも潜んでいます。もしも海中転落してしまった時のために、皆さん必ずライフジャケットの着用をお願いいたします。



左の写真は、磯場での釣り中に海中転落があった場所です。事故者は、日出前のまだ暗いうちに磯場に到着し、釣りの準備をしていました。当時は大きいうねりが時折磯場にも打ち付けている状態で、事故者は大きなうねりが来た際にうねりに飲みこまれ海中転落したものと思われ、付近にいた別の釣り人が、事故者の姿が見えなくなり、海中にライトの明かりが見えたことから海上保安部に通報しました。その後、事故者は海上で発見され、水難救済会所属の船に引き揚げられましたが、死亡が確認されました。事故者はライフジャケットを着用していませんでした。磯場での釣りは、足場が悪く、海水等で非常に滑りやすい状態になっているので、海中転落の危険性が非常に高くなります。磯場によっては、救助機関が容易に近づけない場所もあり、救助に時間がかかることもありますので、ライフジャケットの着用は必須です。磯釣りをする際は、必ずライフジャケットを着用し、うねりがある日は、不用意に波打ち際に

近づかないようにしましょう。



左の写真は、チューブに穴が開き、海水が船内に浸水したゴムボートの模様です。事故者は1名で釣りのため出港。釣りをしようと牡蠣筏に係留しようとしたところ、牡蠣筏の固定用針金でゴムボートの左舷側のチューブが破れ、空気が抜けてしまい徐々に左舷側から浸水し、転覆しました。事故者は付近で釣りをしていた手漕ぎボートに救助され、その後水難救済会所属の船に移乗し搬送されましたが、命に別状はありませんでした。本件は目撃者の携帯電話により118番通報があり無事救助されましたが、事故者はライフジャケットを着用しておらず、付近に人が居なかったり

り、海中転落した場合は、非常に危険な状態になった可能性があります。ゴムボートで釣りをする人は、チューブに穴が開くことがあり得ることを念頭に十分注意することが必要です。

バックナンバーはこちら

[http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine\\_anken\\_report/](http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/)

# ～冬季を迎えるにあたって（一言）～

今年も残りわずかとなりました。

マリンレジャーを楽しむ季節として、厳しい季節となります。しかし、レジャーに“寒さは無用”“寒がるなんてナンセンス”！まさにおっしゃるとおり？

ただ、自然は生き物です。これからますます北寄りの季節風は強くなり、海上も時化の日が多くなります。

「天気もいいし海も穏やかだろう」、「折角の休みだから」、「やっと取れた休みだから」、「釣り船予約したしお金払ったから」・・・お気持ちは分かりますが、まずは安全が第一、やめる勇気も必要です。

様々な、マリンレジャーを楽しむ方多いと思いますが、出かける前に、**天気予報**や**気象情報**を確認し、安全なレジャーを楽しんでください。

## ★下の画像、どう見ます？（因みに“津波”ではありません）

七管内の事例ではありませんが、**防波堤を襲った大波の画像**です。（珍しい画像ですので紹介します。）



ごらんの通り、防波堤上を大波が洗っていますね。人間なんてひとたまりもありません。**あっという間に海中に投げ出されてしまいます**。実際、防波堤上で釣りをしていた方が波にさらわれ、海中に投げ出されました。（右画像参照）

救助に向かった巡視艇や漁船もなかなか近づくことができません。結果として釣り客は無事救助されましたが、大変危険な状況ですね。（こんな時こそ、**ライフジャケットは命綱！**）



### ★ 船舶海難発生隻数（七管区速報）

1月～11月：376隻（▲29隻）

11月：32隻（▲8隻）

### ◎ プレジャーボート海難発生隻数（同上）

1月～11月：130隻（▲27隻）

11月：7隻（▲5隻）

11月は、特に**プレジャーボートの機関故障**が多く発生しています。（4隻）

10月までの機関故障を見ると発航前点検を行っていれば防げたであろう原因の多くが「燃料こし器目詰まり」であることが判明しています。

出港前に、もう一度、**燃料点検**、**機関室を覗いてみましょ**う。それだけで、防げる事故もあります。



# アンカー（錨）類の取扱いには十分注意をお願いします

プレジャーボートや遊漁船では、アンカー（錨）やシーアンカーを海中に投入し、エンジンを切って釣りを楽しんでいる方も多いと思います。ただこのアンカー類は意外と重量があるため、人力で海中に投入する時や引き上げる時に、その重さに負けて、人が海中転落する危険性をはらんでいます。また、巻き上げ用ローラーで巻取りをした際に、最後に錨がローラーから跳ね上がり、船上で人に直撃した事案もありますので、以下の点に十分注意してください。

- ① アンカー類はロープをアンカーに結んで海中に投入しますが、投入前、ロープを適切に扱わず、船上でコイル（輪に束ねる）するなど整理して置いていない場合、投入時にロープが船上で暴れ、ロープが足に引っかかり転倒する危険があります。また、せっかく整理していてもロープを踏んだり、またいでいたりすると、足にロープが絡まってアンカーと一緒に海中に落水し、海中に引き込まれ溺死する可能性があります。アンカー投入時は、ロープの状態に十分注意するとともに、慣れていない方には絶対に作業をさせないで下さい。
- ② アンカー類を引き上げるときも同様です。アンカー類を引き上げている時は、アンカーロープも海水で濡れており、船上も海水で滑りやすい状態になっています。また、アンカー類を海面から引き上げる瞬間は、浮力が無くなるため、急にアンカーロープに重量がかかり、滑りやすい船上でバランスをくずし易く、非常に危険です。また、プレジャーボートでは1人の人が船上で動くと、うねりや波浪がある時と同様に、船体が左右に動揺することもあり、海中転落する危険があります。アンカー類の海中への投入時と同様十分注意するとともに、慣れていない方には絶対に作業をさせないで下さい。



これまでの事事例（小型漁船を含む）を見てみますと、

- ・巻き上げ用ローラーを使ってアンカーを揚げる際、最終段階で巻き上げ速度を落とさなかったため、錨が跳ねて頭部に当たり死亡したもの。
- ・アンカー投入の際に、何らかの拍子に足にロープが絡まり、そのまま海中に引きずりこまれ死亡したもの。
- ・アンカーロープや巻き上げ用ローラーに、誤って手や足を挟んでけがをしたもの。
- ・船を前後進させて錨を揚げようとし、バランスを崩して海中転落又は転覆したもの。

があります。投錨・揚錨の作業は危険が伴いますので十分注意をしてください。

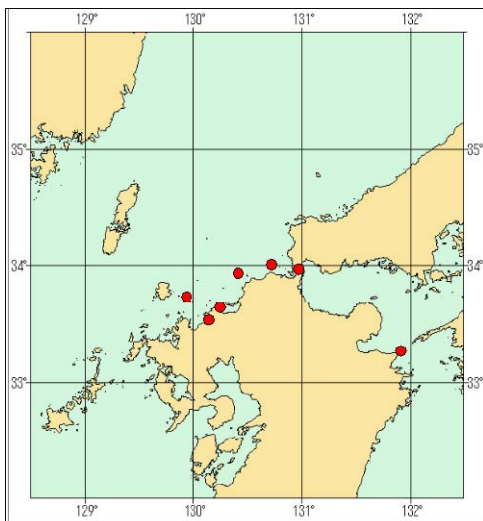
**海で命を守る**  
**3つのポイント**

- ライフジャケットの常時着用
- 連絡手段の確保  
防水携帯電話の携行！
- 海のもしものは「118番」

海上保安庁第七管区海上保安本部

●平成24年11月プレジャーボート等海難発生地点図



平成24年マリンレジャー事故発生状況（速報値）					
海難種類	船舶事故隻数		海浜事故者数		
	11月	累計	レジャー種類	11月	累計
衝突	1	21	釣り中	3	20
機関故障	4	44	遊泳中	0	18
乗揚げ	0	16	磯遊び	1	3
運航阻害	0	28	その他	0	21
安全阻害	1	7			
その他	1	31			

